

松平家 所藏名宝展

市制100周年記念

明公を偲んで



肥後陶器「金唐草模様水指」



玉桂象台「彫漆菊文象」



玉桂象台「真鍮料結瑠」

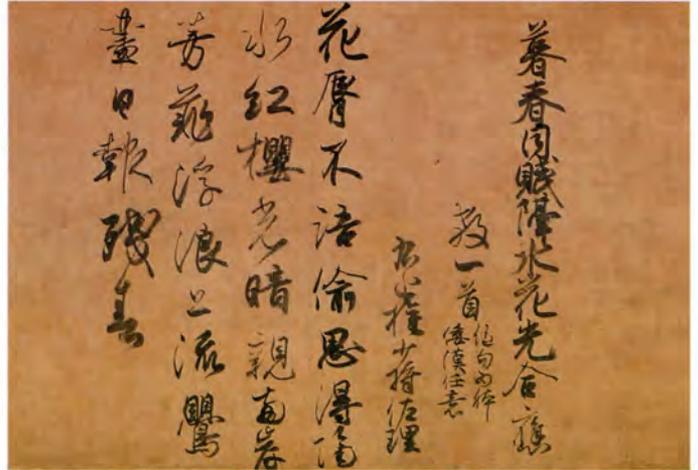
90年10月5日(金) ~ 10月28日(日)
 開館 / 午前9時 ~ 午後5時 初日は午前10時より開館 初週土曜日 午後7時 ~ 午後9時 平日は開館
 入場料 / 一般600円 高校生300円 小学生100円 幼児50円 団体20名以上15%割引

主催 / 高松市美術館 高松市 西国新聞社 西日本放送 協力 / 松平家 松平公彦会

高松市美術館



玉楮象谷《堆朱鼓箱》



藤原佐理《詩懷紙》(国宝) (上の作品は10月14日まで展示します)



鶴洲《粟に鶴図》

松平家所蔵名宝展 一明公を偲んで一

徳川家康の孫である松平頼重が生駒氏の後をうけて高松藩主になったのは、寛永19年(1642)のことでした。以来、松平氏は11代にわたって高松を治め、この間に現在の高松市の基盤が作り上げられたのです。今年、高松市は市制100周年という節目を迎えましたが、残念なことにこの年はまた13代にあたる松平頼明氏(明公)が亡くなられた年にもなりました。この展覧会では市制100周年を記念するとともに亡き明公を偲び、松平家に伝わる美術作品から選りすぐった100余点の名宝を紹介いたします。

松平家の所蔵作品は、松平家とその歴史の反映であるといえるでしょう。『詩懷紙』(藤原佐理・国宝)をはじめとして、多くの宸翰や刀剣類、高松の作品では玉楮象谷の代表的な漆芸品、理兵衛や道八の陶器、儒学者や御用絵師の書画など、その作品は多岐にわたっています。これらの作品は皇室や將軍家、水戸・紀伊徳川家、井伊家との関係や、藩内の経済・文教政策など、松平家と高松藩がたどった道程を雄弁に語ってくれます。この素敵な美と歴史の旅を、心ゆくまで楽しみ下さい。

●記念講演会

《松平十二万石と その名宝について》

講師：市原輝士(郷土史研究家)

10月7日(日)

午後1時30分より美術館講堂にて
入場無料 先着200名様

●次回の展覧会

《アルゼンチン国立美術館展》

—19世紀フランス美術と
アルゼンチン美術—

11月16日(金)~12月20日(木)